人間に必ず要求される出頭

ジョエル・ビーキ

読者へのメッセージ

あなたと私は対面したことがなく、ましてや会う機会さえもないかもしれません。しかし、あなたに個人的な手紙を書きたいと願っています。

あなたにこの手紙を書き送る理由は、意外にもお互いには共通点があるからです。私たちはこの世では会えないかもしれませんが、いつか、必ず対面します。*あなたと私には死ぬことが出来ない魂があるからです*。この魂で、偉大な裁判の日に、あなたと私の創造主である唯一まことの神様の御前に立たなければなりません。*「人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっている。」*（ヘブル人への手紙９章２７節）

あなたは「死」について考えたくないかもしれません。しかし、いつか死ぬという確実な事実を逃れることが出来ません。いつか死に、神様に会わなければならないとあなたは知っているはずです。昼の後に夜が来るのと同じく、死の後に裁きが来ることをあなたは知っているから、死の事を考えたくないかもしれません。そういうわけで、あなたに真剣な質問をしたいと思います：*あなたが死ぬとき、あなたに何が起きるのか？*

あなたは「永遠」と対面しなければならないことを聖書、良心、常識はあなたに警告します。だから、あなた自身のために、この大切な質問を棚に置かないでください：*あなたは死ぬ覚悟と裁き主である神に会う準備はできていますか？*

まことの神様に出会う準備をしていると思い違いしている大勢の人々が、偉大なる裁きの日に地獄に落ちることは非常に残念なことです。聖書では神様はこう語られます：「その日には、大勢の者がわたしに言うでしょう。『主よ、主よ。私たちはあなたの名によって預言をし、あなたの名によって悪霊を追い出し、あなたの名によって奇跡をたくさん行ったではありませんか。』しかし、その時、わたしは彼らにこう宣告します。『わたしはあなたがたを全然知らない。不法をなす者ども。わたしから離れて行け。』」（マタイによる福音書７章２２－２３節）

すべてが順調に行っていると思ってこの人生を歩んでいる者がその裁判の日に全能の神様の御前に立ち、「わたしはあなたがたを全然知らない」と神様がその人たちに言う時に、どんな最悪な覚醒になるのか考えたことがありますか？この言葉を聞く者の魂の苦しみは言葉にできないものです：「不法をなす者ども。わたしから離れて行け。」主イエス・キリストがマタイによる福音書の７章に語るこの絶望する「大勢の者」の中にあなたと私も含まれることになるのでしょうか？

親愛なる読者よ。誰が地獄へ行き、誰が天国へ行くのか私に説明させてください。

永遠の破滅への広い道

まず、あなたに正直に伝えます、人類のほとんどが地獄へ行っていることがマタイ７章に書いてあります。「狭い門から入りなさい。滅びに至る門は大きく、その道は広く、そこから入って行く者が多いのです。いのちに至る門はなんと狭く、その道もなんと細いことでしょう。そして、それを見出す者はわずかです。」（マタイによる福音書７章１３－１４節）あなたはこれを無慈悲だと考えるかもしれません。しかし、この非常に悲しい事実が本当であるのは、神様が無慈悲だからではなく、我々が自分自身に対して無慈悲であるからです。我々は意図的に創造主を無視し、神様の愛を見下し、我々の幸福のために神様から与えられた律法を踏みつけ続けている。我々がこの様な最悪な反乱と邪悪な行為をするので、*すべての者が、死と地獄を得た*。この二つの物だけが我々が受けるに値するのです。「すべての人は罪を犯して、神の栄光を受けることができず…」（ローマ人への手紙３章２３節）、「罪から来る報酬は死です。」（ローマ人への手紙６章２３節）

地獄へ向かっているこの大勢の内に、どのような人たちが含まれているのでしょうか？

１．***すべての不信仰な人々***は地獄へ行きます。公然に邪悪な人生を歩み、次のような悪いことをする人々を含みます。

・居酒屋で時間を費やし、酒と薬物に金を使う者。
・不法な性的関係を持つ者。
・安息日（日曜日）をほかの曜日と同じ扱いをする者。
・テレビで躍如に罪が犯されているのを頻繁に見る者。
・神様の聖なる御名をみだりに使い、公然と神様の御名を汚す者。
・両親と神様が定めた権力者に対して反抗する者。

このような不信仰な人々は、神様の恵みの全能の力によって本当の悔い改めと回心に導かれない限り、地獄へ行きます。あなたは、この者の中にいるのでしょうか？もしそうであれば、主イエス・キリストを呼び求めることが永遠に手遅れになる前に、悔い改めること、神様に罪を告白すること、神様の恵みを求めることをあなたに心から督励します。

２．*すべての世的な人々*は地獄へ行きます。ひどい罪を犯さないようにするが、この世界と絡み合っている人生を歩み、次のようなことを継続的にするときに重荷、または責任を感じない者は地獄へ落ちるのです。

・神様ではなく自分を優先すること。
・神様の恵みの富よりも世的な富を尊重すること。
・神様が聖書に明らかにされた神様の御心よりもほかの人の欲求を推進すること。
・不滅の魂のために必要な救い主よりも日常の生活の必要なものを貴ぶこと。
・彼らに祝福を降らせる聖なる創造主を怒らせ、創造主に対して罪を犯すことよりも罪の結果の方が惨たんたることと考えること。
・神様が彼らについて何を考えるかよりも隣人と友達が彼らについて何を考えるかの方が大切だと考えること。

神様の恵みと全能の力によって本当の悔い改めと回心に導かれない限り、このようなことをする人たちは永遠に地獄へ行くことになります。あなたは、この中の一人でしょうか？

ならば、あなたに伝える必要があります。もし、たとえあなたが天国へ行けたとしても、天国はあなたに喜びを与えることは出来ません。天国の主があなたの友ではないからです。主なる神様が喜ぶことを、あなたは喜びません。神様が嫌うものを、あなたは嫌いません。神様の御言葉である聖書はあなたのカウンセラーではありません。神様の安息日はあなたの喜びではありません。神様の律法はあなたのガイドではありません。神様のことについてあなたは興味がありません。神様と話すことについてあなたはなおさら興味がありません。神様と永遠に一緒になることはあなたにとって耐えきれないことになります。聖徒たちや天使たちと交わることはあなたにとって退屈なことになります。あなたの実生活を見てみると、あなたにとって聖書はどうでもいいこと、キリストはたいしたことない、罪から救われる必要はないと考えていると分かります。「眠っている人よ、起きよ。死者の中から起き上がれ。そうすれば、キリストがあなたを照らされる。」（エペソ人への手紙５章１４節）「だれも二人の主人に仕えることはできません。一方を憎んで他方を愛することになるか、一方を重んじて他方を軽んじることになります。あなたがたは神と富とに仕えることはできません。」（マタイによる福音書６章２４節）

３．*大勢の宗教的な人々*は地獄へ行きます。忠実に教会に行っているのに、聖書を教えているのに、牧師さえも地獄へ向かっている可能性があります。好きな話題が宗教であっても、神とキリストのことを話すのが好きであっても、外面的に非難のない人生を歩んでいても、魂が破滅から救われていないかもしれません。

マタイ２５章の五人の偽善の処女のように宗教的であるかもしれません。五人の知恵のある処女と同じ信仰告白、期待、ともしび、外見を持っているのに、永遠に滅びます。アハブ王のように宗教的であっても、まだ回心されていないかもしれません。聖書は彼についてこう語っています。「アハブはこれらのことばを聞くとすぐ、自分の外套を裂き、身に粗布をまとって断食をした。彼は粗布をまとって伏し、打ちひしがれて歩いた。」（第一列王記２１章２７節）

罪に対して一般な確信と神の印象と聖なる属性を経験し、罪を認め、罪で謙虚にされ、罪のために嘆き祈り、また罪を犯すことを恐れるかもしれない。しかし、それでも天国に入ることは出来ないかもしれません。カイン、サウル王、イスカリオテのユダのことを考えてみてください。

不熱心な宗教と教会に通うことだけでは十分ではありません。私たちが新生し、回心されるには聖霊の不可抗的で生き返らせる働きが必要です。その時のみ、私たちは心を尽くして神を愛することができます（神を愛することは、前述の例にはなかったものです）。その時のみ、のどが渇いた人が冷たい水を欲しがるように、神を欲しがるようになります。その時のみ、神の恵みによって主に会うことができるようになります。「ですから、自分のうちの光が闇にならないように気をつけなさい。」（ルカによる福音書１１章３５節）

天国への道を歩んでいるかを私はどうやって知ることができるのでしょうか？

<u>永遠の命への狭い道</u>

天国へ着くすべての人々は、救いは神様の恵みによる素晴らしい奇跡であることを告白します。その人たちは御霊によって新しく生まれた魂であるのです（ヨハネによる福音書３章を参照してください）。神様がその人たちを回心させたのです。回心されるとき、その人々はこの三つのことを経験します。１．自分自身の罪深さを心から悲しむ。２．イエス・キリストに

ある救いを心から喜ぶ。３．神様の偉大なる救いを神様に心から感謝する。（ローマ人への手紙７章２４－２５節と詩篇５０篇１５節を参照してください。）

１．自分自身の罪深さを心から悲しむ

御霊が罪人に救いを働き始めるとき、その罪人にキリストを明らかにすることから始めません。生まれながらの私たちの心に、キリストのための部屋はありません。むしろ、御霊は罪人に罪人自身の悲劇的な悲惨と神様の前で罪人であるという危険な状態を見せます。罪人は次のことを経験します。

・すべてを知っておられる神様に対して犯した数えきれない罪（考えの中で、言葉で、行動で犯した罪すべて）を心から悔い、悲しみます。

・神様なしで、キリストなしで、世の中に希望がないことに心から悲しみます。

・アダムが犯した最初の罪で堕落した状態となり、心は汚れと腐敗の泉であるほかならないことを教えられ、心から悲しみます。

・罪の重荷が耐えきれないことだけではなく、罪の重荷から自分自身を解放することが不可能であることを心から悲しみます。

・自分を救うことが無理であることに気づかされ、悲しみ、また、救われなければならないということも知らされます。これらの物を示された罪人はこう叫びます。「主よ、あなたは正義であり、私を永遠に捨てることは正当なことです。しかし、あなたが下す罰から逃れ、あなたに喜ばれるものになれることは、あなたを通して、可能でしょうか？」

そしてみすぼらしい、ふさわしくない、有罪で失われた罪人であるあなたは、自分で救いを得ることが全くできないと知っていますか？

２．イエス・キリストにある救いを心から喜ぶ

罪人は未来に永遠の罰を味わうことを知り、聖霊が罪人を唯一の逃げ場である神様にゆだねるとき、聖霊は罪人に三位一体なる神様の言葉にできないほど素晴らしい救いの道を明らかにされます。その道は主イエス・キリストの血と満足だけなのです。罪人は次のことを経験します。

・キリストの必要性。

・キリストの償いの働きの美、完全性、と適合性を理解する。

・堕落した、全くふさわしくない罪人の代わりにイエス・キリストが律法を完全に守り、罪の罰を完全に受けたことを神の御言葉と聖霊を通して、魂にキリストの啓示がある。

・言葉にできないほどの喜びでキリストを自分の救い主と罪からの救いとして受け入れることができる。

聖霊の力によって、神様の御言葉が魂に適用され、キリストが救いの偉大なる道であることが示されましたか？キリストがあなたのすべてのすべてとしてもっと知りたい望みが与えられましたか？罪人を喜んで救う唯一の救い主イエス・キリストを経験的に知ることを望んでいますか？

３．神様から与えられる救いを心から感謝する

最後に、イエス・キリストによる神様の救いの道を本当に経験する者はこんな偉大な解放に心を尽くして感謝を示す。「主が私に良くしてくださったすべてに対し私は主に何と応えたらよいのでしょう。」（詩篇１１６篇１２節）この素晴らしい救いを経験した者は主イエス・キリストに魂と体すべてを時と永久のためにゆだね、真の服従で神様の足元にひざまずき、「みこころが天で行われるように、地でも行われますように」と告白します。我々には欠点がたくさんあるにもかかわらず、何よりも神様のご栄光のために生きる望みがあるようになります。そして愛を持って周りの人々に仕えます。

愛する読者よ、自分を調べなさい。

あなたは、どの道を歩んでいるのか？

あなたは、永遠の破滅の広い道を歩んでいるのか、それとも永遠の命の狭い道を歩んでいるのでしょうか？この世界では道はいろいろあります。しかし、霊的な世界では道は二つしかありません。その二つの道は決して交差しません。闇が光の真逆であると同じく、悪魔が神様の真逆であると同じく、自然が恵みの真逆であると同じく、地獄が天国の真逆であると同じく、その二つの道はお互いに真逆なものです。ただ神様だけが、神様の無償の恵みによって、我々を破滅の広い道から取り出し、永遠の命へ導く狭い道に置くことができます。

罪人よ、あなたに罪深く、邪悪な道から離れることを懇願します。「あなたがたは新しく生まれなければならない」と告

げられただけではなく、「人の子（御子として来られたイエス様）は、失われた者を捜して救うために来たのです」と告げられた御方、神様であるイエス・キリストに本物の回心を心から叫び求めなさい。あなたの魂は失われており、あなたは非常にみじめな状態です。だから、十字架にかけられた主イエス・キリストの福音のメッセージが心に受け入れられるように主に求めなさい。

あなたに最後の警告をさせていただきます。新約聖書の２７巻の中で、地獄は２３４回言及されています。たとえとして、全生涯の道が２７マイルの長さとしましょう、そしてこのルートの途中には「この道は地獄へ行きます」と書かれている２３４個の看板があるとしましょう。あなたはそれにもかかわらず、そのままその道にとどまることをしますか？あなたが悔い改めない、信じない、キリストのない、自己満足の罪人でいる限り、あなたはこの地獄へ行く道を歩んでいるのです。キリストのないままの世的な、または宗教的な人生の終わりは地獄です。

この短いメッセージは、人生の道を歩んでいるあなたへ神様が与えられた、人間の道すべては永遠の死に終わることを警告する看板の一つです。「主を求めよ、お会いできる間に。呼び求めよ、近くにおられるうちに。」（イザヤ書５５章６節）

神様の忍耐が切れ、神御自身の御言葉を成就するまで、主はあと何個の警告の看板をあなたに贈るのでしょうか。「人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっているように、キリストも、多くの人の罪を負うために一度ご自分を献げ、二度目には、罪を負うためではなく、ご自分を待ち望んでいる人々の救いのために現れてくださいます。」（ヘブル人への手紙９章２７－２８節）

自分の命のために急ぎなさい、罪人よ。あなたの命の糸はまだ切られていませんが、徐々に短くなってもろくなっています。神である主はあなたに今でもこう語っています。「わたしは誓って言う。― 神である主の御告げ ― わたしは決して悪者の死を喜ばない。かえって、悪者がその態度を悔い改めて、生きることを喜ぶ。悔い改めよ。悪の道から立ち返れ。イスラエルの家よ。なぜ、あなたがたは死のうとするのか。」（エゼキエル書３３章１１節）

恵みの扉はまだ開かれています。キリストの王座はまだあなたに閉ざされていません。手遅れになる前に、神様の声を聞きたいですか？「御子に口づけせよ。主が怒り、おまえたちが道で滅びないために。怒りは、いまにも燃えようとしている。幸いなことよ。すべて主に身を避ける人は。」（詩篇２篇１２節）

この地球で神様なしで生きた者は地獄で神様なしで苦しまなければならない。ルカによる福音書１６章の金持ちが経験したことを経験することは、とてつもなく恐ろしいことです。「よみで苦しみながら目を上げ... 金持ちは叫んで言った... 私はこの炎の中で苦しくてたまりません。」

愛する友よ、あなたに愛を持って警告する。あなたと私は死から逃げることはできない。死というものは、絶対に守らなければならない約束である。

あなたは、死ぬ覚悟はできているのか？